

ナベケン流

インバウンドの教科書



文・渡邊賢一

ソーシャルプロデューサー

福祉先進国のノウハウを海外へ

いま海外から注目を集める有料老人ホームがあります。千葉県舞浜市にある舞浜倶楽部です。世界各国で高齢化が進展するなか、日本はその中でも真っ先に高齢化社会を迎え、長年蓄積した介護や福祉のノウハウが集積した国として各国から研究されています。舞浜倶楽部は先進的な取り組みを数多く行っており、中国などアジア諸国、欧米からの視察観光を多く受け入れています。

例えば中国は介護が必要な方がすでに2500万人。日本の福祉や介護制度のようなものが十分に整備されておらず、産業そのものもありません。介護が必要な高齢者は基本的に家族がすべてケアしており、精神病院に入院させるケースもあるようです。典型的な高齢者と暮らす家族の構成は、かつての一人っ子政策の名ともいえる、いわゆる「4-2-1の法則」と呼ばれ、子供1人に対して親が2人、その親4人が高齢者という、1人の子供が6人の高齢者を将来的にケアしていく構造になっています。

急速に高齢化が進む中国社会で、なんとかしないといけないとの風潮が高まっています。日本に学べという産業観光需要も高まっています。舞浜倶楽部への訪問者で一番多いのは中国の不動産事業者。主に富裕層向けの有料老人ホームが建設ラッ



欧米やアジアから注目を集める舞浜倶楽部。海外からの視察が絶えないという。写真はスタッフ・ストランデル社長（左）と廉隅紀明顧問

シュで、北京や上海、大連を中心にすでに2000棟弱建設されたといえます。運営まで踏み込んで学ぶために、医者や看護師の訪問も増えています。

ハードからソフトまで急成長分野であり、日本からどんなにノウハウを吸収しても間に合わない状態です。中国政府も当面、抜本的な社会保障充実などの政策は提示しておらず介護保険制度新設の期待もないため、当面は任意保険制度のみと思われます。日本はこの2つの制度に加え、充実した有料老人ホームやケア施設が融合した世界唯一のモデルがあります。現在、経済産業省でもヘルス産業の海外輸出や産業観光資源化は検討されていますが、病院システムのみ留まっており、介護ビジネスに対象が広がるのが望まれます。

介護福祉関連産業へのツーリズムはスウェーデンに先進事例があります。政府と旅行業界が連動し、80年代から年間何千人も日本人の介護福祉関係者を受け入れ、ビッグビジネスとして定着しています。日本でも有料老人ホーム、特別擁護老人ホーム、グループホームによって事情の違いがあり調整は必要ですが、日本の優れたノウハウを人材育成観光事業、ビジネスモデル研修観光など、すぐにでも展開できる素材が山ほどあります。

日本の有料老人ホームは約4000カ所。温泉や健康食品など代替医療が豊富な地域資源と連携すれば、新しいツーリズム開発も可能です。まずは観光庁、厚生労働省、経済産業省、旅行業界が連携して、モデルツアーをつくることから始めてみるのがよいかもしれません。



わたなべ・けんいち ● 一般社団法人元気ジャパン代表理事。内閣官房地域活性化伝道師、仏ジャパン・エキスポや伊ルッカC&Gのアドバイザーなどを務める。慶應義塾大学大学院研究員。